

学校法人市邨学園  
名古屋経済大学短期大学部  
機関別評価結果

平成22年3月18日  
財団法人短期大学基準協会

## 名古屋経済大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 市邨学園
理事長名	末岡 熙章
学長名	末岡 熙章
ALO	高田 豊實
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	愛知県犬山市字内久保61-1

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育科		150
キャリアデザイン学科		200
	合計	350

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

名古屋経済大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 20 年 6 月 5 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 40 年に女子のための市邨学園短期大学として開設され、その後平成 14 年に男女共学とし、名古屋経済大学短期大学部に改称した。

当該短期大学の学科は当初商経科、家政科であったが、幾多の変遷を経て、現在キャリアデザイン学科と保育科の 2 学科体制である。

100 年余の歴史を有するだけに「一に人物、二に伎倆」という建学の精神は明確で、その現代的解釈を行い、短期大学の教育目的、教育理念にも生かしている。

保育科とキャリアデザイン学科は各々十分な共通科目を置き、幅広い教養教育を行うとともに、専門科目に関しては、保育科は講義科目、演習科目、実習科目のバランスに配慮し、少人数教育を取り入れた教育に重点を置いている。またキャリアデザイン学科は、将来の進路を基準に充実した科目を配しており、7 コースを設定して学生の科目選択の指針としている。

教員組織は短期大学設置基準を十分に満たしており、教員の資格審査及び採用・昇進は規程等に基づき適切に行われている。また、校地・校舎面積、運動場、体育館、教育研究のための情報機器の配置、図書館の設備等も充実している。図書館は併設の四年制大学と共有であるが平日午後 8 時まで開館されており、学生の図書館利用状況は向上している。

入学志願者への情報の提示、多様な入学者選抜、入学前指導、入学後の基礎学力の向上指導、入学後のガイダンス、学生からの意見提案箱の設置、学生支援に必要な設備や人員組織配置、キャリアセンターなどによる進路支援体制の整備など十分な学生支援体制が取られている。

教員の研究体制は、潤沢な学内研究費及び国内外での研究支援金の支給や研修日も確保されるなど充実したバックアップ体制が敷かれている。個人研究業績に偏りがみられるが、保育科の全教員が共同研究を行い、成果を学内助成金で刊行するなど活発に研究活動が行われている。

社会的活動に関しては、当該短期大学は生涯学習拠点として地域から認識され、地域 FM 放送、公開講座などを実施している。また、地域との連携交流協定や産学官連携協定が締

結され、学内の組織も整備されている。学生はボランティア活動やゼミナール活動を通して社会とのつながりを深めている。

理事会、評議員会は、寄附行為の規定に基づいて開催され、監事も出席し意見を述べ、適切に学校法人の管理運営が行われている。教授会は学則に基づき運営されており、理事長を兼ねる学長が出席し、リーダーシップが発揮されている。短期大学の事務部門は併設四年制大学と一体化されており、諸規程に従って、管理運用、決裁処理等の業務が適切に行われている。人事管理は、教職員の就業に関する規程が整備され、適切に行われている。

事業計画、予算・決算は理事会及び評議員会などに諮り適切に決定され、財務管理は経理規程などに基づいて適切に管理されている。その他の管理に関する諸規程、財務諸規程なども整備されている。内部監査の実施、監査法人との報告会も実施されている。

学校法人及び短期大学の収支バランスに課題はあるが、「大学運営戦略会議」を立ち上げ、財務改善に向けて努力されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- キャリアデザイン学科の「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラムは平成19年の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定されている。ワークショップ型ゼミナールの実施、各種メディアを活用した情報の発信などを行い、学生への教育に効果をあげている。
- 「基礎演習」、「特殊演習」において、保育科の専任教員全員が教育に当たり、13名以下の学生を対象にゼミナール形式の少人数教育を実践して、建学の精神である「人物」教育と「技倆」の教育に力を入れている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学生アンケートに基づいて、通学路の安全確保、スクールバスの増便、学生相談室の充実(カウンセラーの常勤体制)、コンビニ店の開設等の改善を行い、学生サービスの向

上に努めている。また、図書館では、学生が図書の選書・購入に参加し、学生の要望にこたえる図書を購入する取り組みを実施している。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 保育科の全教員で共同研究を行い、その成果を学内の刊行助成金により出版して学生や社会に還元し、研究意識を高める試みを実施している。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- キャリアデザイン学科の1、2年生すべてのゼミナールが地域FMで放送番組を担当するなどの活動を通して、地域とのつながりを意識する体験が在学中にできるという貴重な試みが行われている。今後、「名駅サテライトキャンパス」でも、これらを地域に浸透させていくことが期待される。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- キャリアデザイン学科は、平成21年度より学科の主たる教育の場を「名駅サテライトキャンパス」に移しているが、それによる教育内容、施設設備、学生サービス等について更に充実することを期待する。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究業績の偏りが大きいので、例えば論文を学内紀要に積極的に投稿させるなどの改善策を講じる必要がある。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務職員の資質向上を図るための体系的な研修制度を確立・運用することと併せ、中堅、若手の教職員の意見、提案を取り入れることが望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学2学科の定員充足率が低く、短期大学、学校法人とも、収支バランスにおいて支出超過が続いているので、入学定員の変更等も含め早急に定員割れの改善を図るとともに、経費の削減に努めるなど、早急な財務改善が望まれる。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価報告書は、平成12年と平成19年に作成されているが今後とも継続的な点検・評価を行うことが望まれる。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立者の市邨芳樹の建学の精神「一に人物、二に伎倆」を守り、今日に生かしている。学校法人としての建学の理念は明確であり、その現代的解釈の下、当該短期大学も教育の理念、教育目的・教育目標を定めている。この教育の理念、教育目的・教育目標について平成12年に自己点検し、また平成17年には「大学運営戦略会議」を立ちあげ、改めて建学の理念の現代的解釈を全学で共有しその浸透に努力している。平成18年に学校法人として創立100周年を迎え、その折『慈忠忍「三徳」は世紀を超えて市邨学園の歩み』を発刊したが、そのはじめに建学の精神を明記し、「人物」育成という基本理念の今日的な重要性を強調している。このほか、キャンパスの中心に建学の精神を刻んだ石碑を設置し、日常的に教職員、学生、訪問客等にその精神を伝えている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

幅広い教養教育に力を注ぐとともに、学生の多様なニーズにこたえる教育課程を編成している。また、教育課程の改善に努めている。保育科は、「基礎演習」、「特殊演習」において少人数教育を実践して、建学の精神である「人物」教育と「伎倆」の教育に力を入れている。キャリアデザイン学科は、従来の教育課程を変更し、3分類される科目群と七つの履修推奨コースを設定するなど学生と社会のニーズに応じた教育課程の改革を推進している。また、「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラムは平成19年度の現代GPに選定され、学生への教育に効果をあげている。

シラバスの改善、学生による授業評価、授業改善のための研修会、授業公開等、ファカルティ・ディベロップメント(FD)に組織的に取り組み教育の質の改善に努めており、学

生及び教員に対するアンケート結果は積極的に公開している。非常勤講師との組織的な連携の取り組みに今後の課題がある。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は短期大学設置基準の規定を充足し、授業、研究、学生指導、その他の業務にかかわっている。専任教員の平均担当授業時数は、教員の授業・研究を保障し、学生の授業満足度を高めるものになっている。

また、併設四年制大学と共有であるが、校地の面積、校舎、運動場、体育館、教育研究に使用する情報機器の設置状況、図書館の設備等については充実している。通学路の安全確保、学生のくつろぎ場所の設置、スクールバスの増便、学生相談室の充実、コンビニ店の開設等、学生サービスの向上に努めている。「名駅サテライトキャンパス」は、教育環境、施設設備、学生サービス等については、更に充実することを期待する。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定状況は明確に把握されており、各授業科目の単位取得率は全体として高いものになっている。担当教員による学習評価は適切に行われており、学生による授業評価アンケートを実施して授業改善に努めている。両学科とも退学者数、退学率については一層の改善が望まれる。免許・資格の機会の設定及び取得者数については、保育科は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得に実績を積んでいる。

専門性を生かし幼稚園、保育所に数多く就職しており、就職率も高い。キャリアデザイン学科は、数多くの免許・資格を取得する機会を設け実績を積み上げている。また、2つの学科とも卒業生へのアンケート調査を実施して教育の実績や効果を確認している。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学志願者が求める情報が明示され、多様な入学選抜も行われている。入学前指導もなされ、その延長上に入学後の基礎学力の向上の指導が続けられている。入学直後に必要な、しかも高校生活とは全く異なる履修登録についての情報を入学前から提供するなど、スムーズな学生生活への導入の努力がみられる。入学後は学習支援としてのガイダンスが行われ、個別指導の体制もある。基礎学力充実のための支援もとられており、資格取得に向け支援もある。

学生生活充実のために学生の意見を吸い上げるため提案箱を設置し、その要求にこたえる積極的な努力がみられる。学生支援に必要な充実した設備や人員組織、配置がなされた犬山キャンパスと、そこから離れた「名駅サテライトキャンパス」との格差をどのようにして埋めていくのが今後の学生支援の重要な課題になると思われ、学内でも対策を講じようと考えている。今日の社会状況の中で、奨学金制度が不十分なところが今後の学生支援の課題である。

## 評価領域Ⅵ 研究

潤沢な学内個人研究費、国内外での研究支援金があり、研修日も確保されるなど、研究に対する条件整備は今日の社会情勢に照らしても十分に整っているといえる。その中で研究業績があるものとなないものとの差が大きく、改善していくための働きかけが必要である。短期大学の特色からしても地域との交流の中で、公開講座、地域のアドバイザー、スーパーバイザーとしての役割など教員の専門性を生かした貢献が望まれる。

他方、保育科の全教員が共同研究を行い、成果を学内助成金で刊行するなどのすばらしい取り組みもみられる。このように今後の研究活動が活発に行われる可能性に期待したい。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的な取り組み、生涯学習拠点など、地域と短期大学の関係が理解され、オープンカレッジや生涯学習講座なども開催されている。地域との具体的な連携に向けて協定が結ばれたり、学内組織が整備されたり、今後の具体的な取り組みの活性化が期待される。

学生による社会的活動も、学科の特性を生かしボランティアやゼミナールの成果の公開という形で、地域社会とつながる試みがなされている。それを通して将来就職しそこに根付くであろう地域への理解と愛着を育てることにつながっている。しかしながら、「名駅サテライトキャンパス」への移転に伴い、キャリアデザイン学科では新たな地域社会との連携を模索することが課題となっている。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為の規定に基づいて、理事・評議員が構成に偏りなく選任され、理事会、評議員会が開催され、監事も出席し意見を述べ、適切に学校法人の管理運営がなされている。

「大学院、大学、短期大学部連絡会」が毎月1回開催され、理事長が学園長及び学長を兼務し、教授会は学則により運営され、学長は2学科合同で開催される教授会に出席し、リーダーシップが発揮されている。各学科の教授会も開催されている。

短期大学の事務は、すべて併設四年制大学の事務と兼務されており、学園職務規程、就業規則、公印取扱規程、経理規程、経理規程細則、工事管理規程、情報センター規程に従って、管理運用、決裁処理等の業務が適切に行われている。

教職員の就業に関する規定が整備され、人事管理は適切に行われている。

## 評価領域Ⅸ 財務

財務管理は経理規程などに基づいて適切に行われており、財務に関する関係書類も整備されている。学校法人及び短期大学の事業計画は、学園連絡協議会、理事会、評議員会そして教授会を通じてまとめられ、予算・決算についても適正に取りまとめられ、理事会及び評議員会に諮り議決され、内部監査も行い、監査法人との報告会も行われ予算の執行が行われている。

財務内容については、短期大学は過去3ヶ年、学校法人は2ヶ年収支に関し、支出超過

という課題はあるが、平成 17 年度から理事長・学長をトップとし、教学部門と事務部門が一体となった「大学運営戦略会議」を設置して将来の財政支出計画を策定、適宜見直し、財政収支の改善努力がなされている。定員充足率は 2 学科とも入学者、在学者が 50 パーセント前後で定員割れとなっており、定員充足率の改善が早急に望まれる。

固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程、施設設備等の管理に関する諸規程、財務諸規程等が整備されている。

#### 評価領域 X 改革・改善

平成 3 年の短期大学設置基準の改定に伴い、平成 8 年に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、その後平成 16 年の認証評価制度の発足を受け、規程の見直しを平成 19 年に行っている。また自己点検・評価を平成 12 年に実施、『市邨学園短期大学の現状と課題 2000』を作成、公表した。その後『19 年自己点検・評価報告書』を作成・発行している。この報告書が今回の第三者評価受審の際の自己点検・評価報告書のベースとなっている。

具体的な改革・改善については平成 17 年に設置された理事長をリーダーとする「大学運営戦略会議」が中心となって、短期大学の現状分析、その上での経営計画の策定に取り組み、いくつか提言をしている。相互評価、独自の外部評価は未実施で、外部の目による点検が必要と思われる。